

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 唐澤達之	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p>(1) 科学研究費基盤研究 (A)「近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容」(代表: 弘末雅士、立教大学文学部) への参加</p> <p>2014年度より交付を受けている標記研究に研究分担者として参加した。2016年8月にアドリア海周辺の諸都市を訪問し、環地中海世界における港市と後背地の関係を調査した。また、標記課題の研究会に参加した。担当しているテーマは、イギリス海港都市と後背地の関係であるが、2017年度は標記研究の成果をまとめることが予定されており、それに向けての準備作業を進めた。</p>	
<p>(2) 近世ロンドンにおける給水事業の研究</p> <p>近世ロンドンにおける給水システムの転換に関する研究を進めた。近世ロンドンでは、急増する都市人口のニーズに対応するために、河川や新たに建設した水路及び貯水池から大量に汲み上げた水を水道管で個別世帯に供給するシステムが、株式会社形態をとる私企業によって整備された。こうした給水をめぐる技術革新及び制度革新と、水の管理＝ガバナンスのあり方の変容を実証的に明らかにし、都市化及び経済発展における水問題の克服が有する歴史的意義を考察することが本研究の目的である。2017年5月に開催されるイギリス中世史研究会においてその成果の一部を報告する予定である。</p>	
<p>(3) 書評「坂巻清著『イギリス近世の国家と都市 王権・社団・アソシエーション』(山川出版社、2016年)、『図書新聞』3278号(2016年11月12日)掲載。</p> <p>近世イギリス社会経済史研究の碩学の手になる本書は、民衆の自発的結合と支配権力によるその包摂、都市中間層の役割に着目して、イギリス都市史の全体史を描こうとする意欲的な研究である。そしてまた、中間層の解体と新たな社会関係と秩序の構築が大きな課題となっている日本社会にとっても現代的含意を有する貴重な学術貢献となっている点を評価した。</p>	
<p>(4) 学会における活動</p> <p>比較都市史研究会の幹事として、例会の企画運営、会誌『比較都市史研究』の編集刊行(年2回)、会計の管理などに関わった。</p>	
<p>(5) 大学行政関連業務</p> <p>副学長として、第1期中期計画(2011～2016年度)の最終的な仕上げ、第2期中期計画(2017年度～2022年度)の策定、大学基準協会の認証評価への対応など、全学的な観点から本学の改革・発展の推進に関わった。また、学内の種々の委員会を主宰するなかで、2017年度より実施される英語教育の一元化(両学部での共通化)に向けての最終準備の完了、FD・SDの企画運営、ホームカミングデイの実施、2017年度に実施される本学の創立60周年記念事業の準備などを担った。また、高校訪問、後援会と同窓会の地方支部における広報活動を行った。学部レベルでは、入試改革や2017年度より開設される経済学部国際学科の開設準備に関わった。</p>	
2 その他の事項	
3 次年度以降の計画・抱負	
<p>(1) 研究関連では、「1. 重要事項」に記した(1)及び(2)の研究をさらに進め、成果を発表することが大きな課題である。</p> <p>(2) 大学行政関連では、改めて2017年度4月より2年の任期で副学長職に指名されたので、第2期中期計画(2017年度～2022年度)の実施、認証評価により指摘された諸課題への対応など、全学的な観点から本学の改革・発展を推進することが大きな課題となる。</p>	